



IMV CORPORATION

2023年9月期 第2四半期 決算説明資料

2023年5月

23/9 中間期 トピックス (海外販売の続伸)

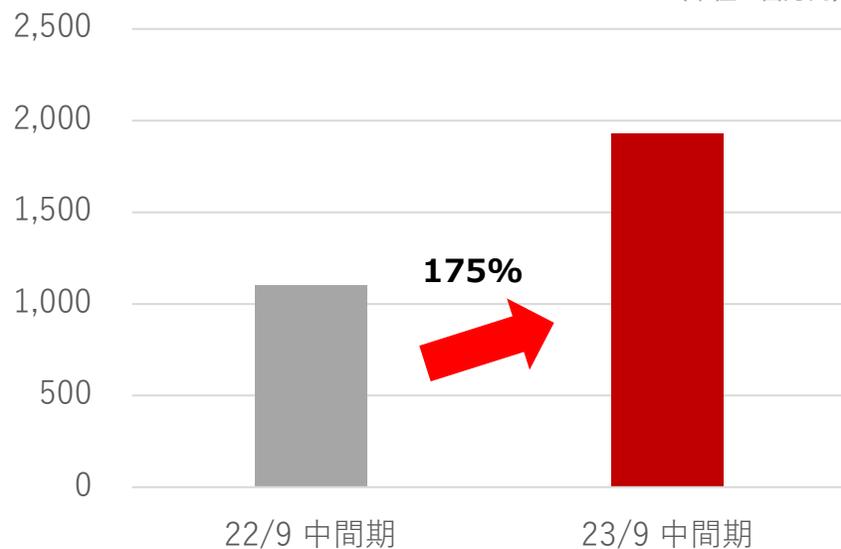
Key Message

振動シミュレーションシステム (DSS)

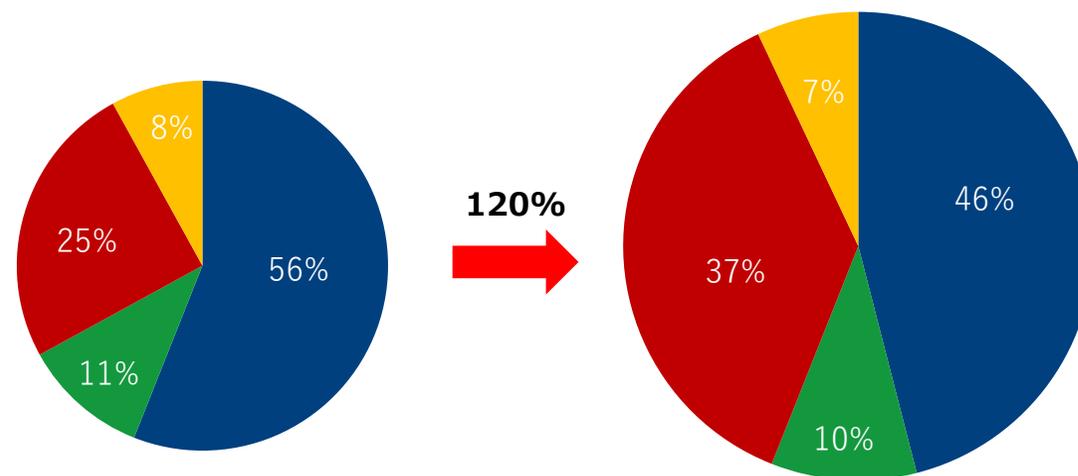
- 22/9期に引き続き海外での販売が好調
DSS全体で前年同期比120%、欧州地域では同175%の売上高
- 中間期においては特に欧州で売上が伸長、今後も大型納品を予定
- 大手自動車メーカー(欧州・社名非公表)への納品も行い、日本だけでなく欧州でもトップの売上を記録
* 他社との売上比較は当社独自調査による

DSS欧州売上高

(単位：百万円)



DSS売上構成比



■ 日本 ■ アジア ■ 欧州 ■ その他

23/9 中間期 トピックス (77期の重点取組)

研究開発戦略



IMV America Inc.がミシガン州立大学と技術提携契約を締結。振動試験機による包装品の評価や新梱包材の開発に期待。共同研究を行うレンゴー株式会社にて、輸送・梱包学の権威であるマツト教授を招きセミナーを開催

グローバル戦略



ホームページを全面的にリニューアル。より情報が探しやすいように構成やデザインを変更するとともに、世界でビジネスを展開するIMVのお客様や投資家の皆様に対応するため、多言語(7言語)対応を実施

重点成長事業 (防災事業)



独立行政法人国際協力機構 (JICA) が募集した2022年度中小企業・SDGs ビジネス支援事業に、「インドネシア国地震計を活用した水門での自動閉門及び上水道での緊急遮断による地域防災ニーズ確認調査」として応募し採択。インドネシアでの防災ビジネス展開に繋げる

宇宙ビジネス



東京・日本橋で産学官の宇宙関連プレイヤーが集結する「一般社団法人クロスユー」に入会。宇宙ビジネスにおける、オープンイノベーションによって革新的なビジネス創出を目指す

画像引用元：<https://www.x-nihonbashi.com/202304-notice-of-renewal/>

23/9 中間期 業績の概況（全社）

Key Message

- 中期経営計画「単なるモノ売りビジネスからの脱却」の下、ミシガン州立大学との技術提携での輸送・梱包への研究や、一般社団法人クロスユーへの入会により宇宙ビジネスへの関係性を深めた。売上が伸長を続ける海外でのビジネスに対応し、7言語対応でホームページを全面的にリニューアル。行政独立法人国際協力機構(JICA)の支援事業で、重点成長事業である防災ビジネスのインドネシア展開を検討していく。
- 売上高は振動シミュレーションシステム(DSS)及びテスト&ソリューションサービス(TSS)の伸長によって増加
部材や電気料金の高騰の影響があるものの、営業利益は増収の影響や既存製品のブラッシュアップ、製造原価低減等の推進により増加
- 受注残高は大幅に増加しており、通期では従来予想通り、売上高12,500百万円（前期比5.1%増）、営業利益1,000百万円（前期比21.2%増）の達成を目指す。

（単位：百万円）

	22/9 中間期	23/9 中間期	前年 同期比	23/9期 業績予想	
売上高	5,976	6,952	116.3%	12,500	DSS及び TSSの伸長によって増加。 特に欧州でのDSS販売が大幅に増加。
営業利益	491	836	170.1%	1,000	増収の影響や既存製品のブラッシュアップ、 製造原価低減等の推進により増加
受注残高	4,535	6,551	144.4%	-	大幅な増加により業績予想達成を見込む

23/9 中間期 業績の概況（事業別）

Key Message

●振動シミュレーションシステム（DSS）

海外市場は欧州における電気自動車向け大型案件に恵まれ、引き続き前年同期を上回る。国内市場においても景況感の上向きから設備投資需要に回復の兆しが見え、受注は増加傾向で推移。サービス部門も第1四半期に引き続きアンプ更新や保守契約の需要が旺盛であり前年同期を上回る。

●テスト&ソリューションサービス（TSS）

電気自動車関連や発電所関連の振動試験が堅調に推移したことにより、前年同期を上回る。日本高度信頼性評価試験センター（e-TCJ）におけるEMC試験（Electromagnetic Compatibility）や環境試験も前年度に引き続き好調を維持

●メジャリングシステム（MES）

地震監視装置は電子部品や半導体の供給不足を受け、受注を確保しながらも製品の完成及び出荷に至らず売上計上の繰延べが発生。振動監視装置はプラントや発電所向け需要が低迷した結果、前年同期を下回る。

（単位：百万円）

	22/9 中間期	23/9 中間期	前年 同期比	
振動シミュレーションシステム（DSS）	4,359	5,209	119.5%	海外市場とサービス部門の続伸に加え、国内市場に回復の兆し
テスト&ソリューションサービス（TSS）	1,177	1,319	112.1%	振動試験需要の堅調な推移に加え、EMC試験や環境試験も好調
メジャリングシステム（MES）	439	424	96.6%	電子部品類の供給不足による売上繰延べや需要低迷が影響

決算概要（連結）①

（単位：百万円）

* 期首からの累計期間 2022年10月1日～2023年3月31日	22/9 中間期	23/9期 中間期	前年同期比	コメント
売上高	5,976	6,952	+976	●売上高はDSS事業及びTSS事業の伸長により増加
営業利益	491	836	+344	●営業利益は電気料金や材料費の高騰の影響を受けるも、増収効果や原価低減等の取組により増加
経常利益	702	863	+160	
四半期(当期)純利益（親会社株主帰属）	577	631	+53	●前年同期に計上した為替差益や投資有価証券売却益、子会社株式売却益等の一時的な利益が含まれない中、四半期純利益（親会社株主帰属）は増加
1株当たり四半期(当期)純利益	35.46	38.77	+3.31	
売上高営業利益率	8.2%	12.0%	+3.8	

決算概要（連結）②

（単位：百万円）

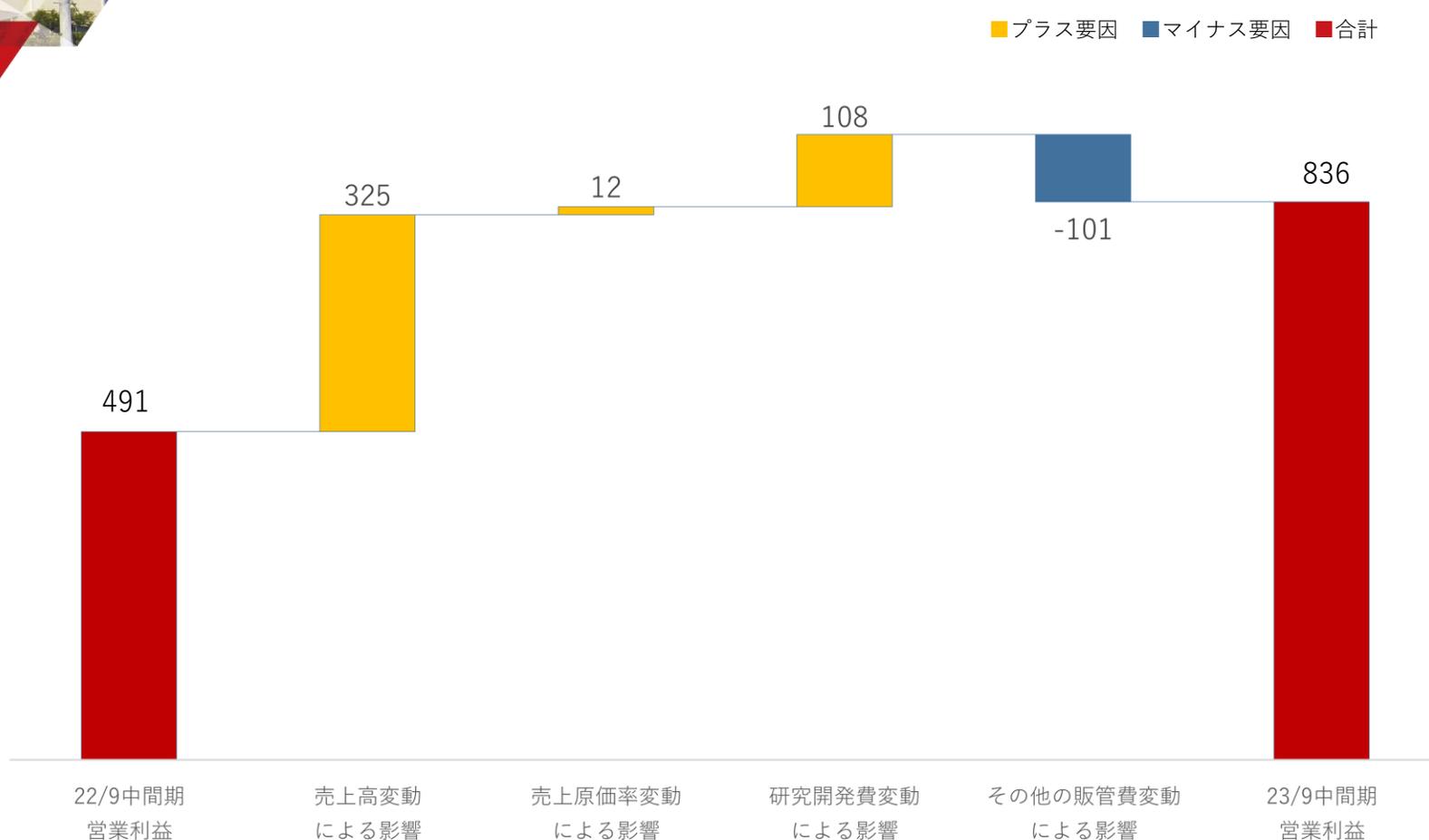
* 期首からの累計期間 2022年10月1日～2023年3月31日	22/9 中間期	23/9期	前年同期比	コメント
営業キャッシュ・フロー	164	188	+23	● 営業キャッシュ・フローは増加したものの、主に有形固定資産への投資によりFCFは163百万円減少
フリー・キャッシュ・フロー(FCF)	216	53	△164	● 上記の設備投資に加え、借入金返済等により現金及び現金同等物残高は減少するも、引き続き潤沢に保有
現金及び現金同等物残高	3,339	2,626	△712	● 利益剰余金の増加により自己資本が増加
自己資本	7,803	8,753	+950	● 財務安定性は引き続き高く、自己資本比率が50%超へ
自己資本比率	46.1%	50.2%	+4.1	

決算概要（連結）③

（単位：百万円）

* 期首からの累計期間 2022年10月1日～2023年3月31日	22/9 中間期	23/9 中間期	前年同期比	コメント
設備投資額	125	137	+11	● 研究開発費は前年同期に計上していた新サービス“iMV cloud”(前期リリース)への初期開発投資が無くなったことにより、前年同期比で減少
減価償却費	273	251	△21	
研究開発費	432	323	△108	● 獲得した利益を安定的に株主に還元すると共に、株主及び機関投資家との対話を通じてIR活動の充実を図る
四半期末(当期)株価（円）	507	460	△47	
四半期末(当期)時価総額	8,260	7,496	△764	

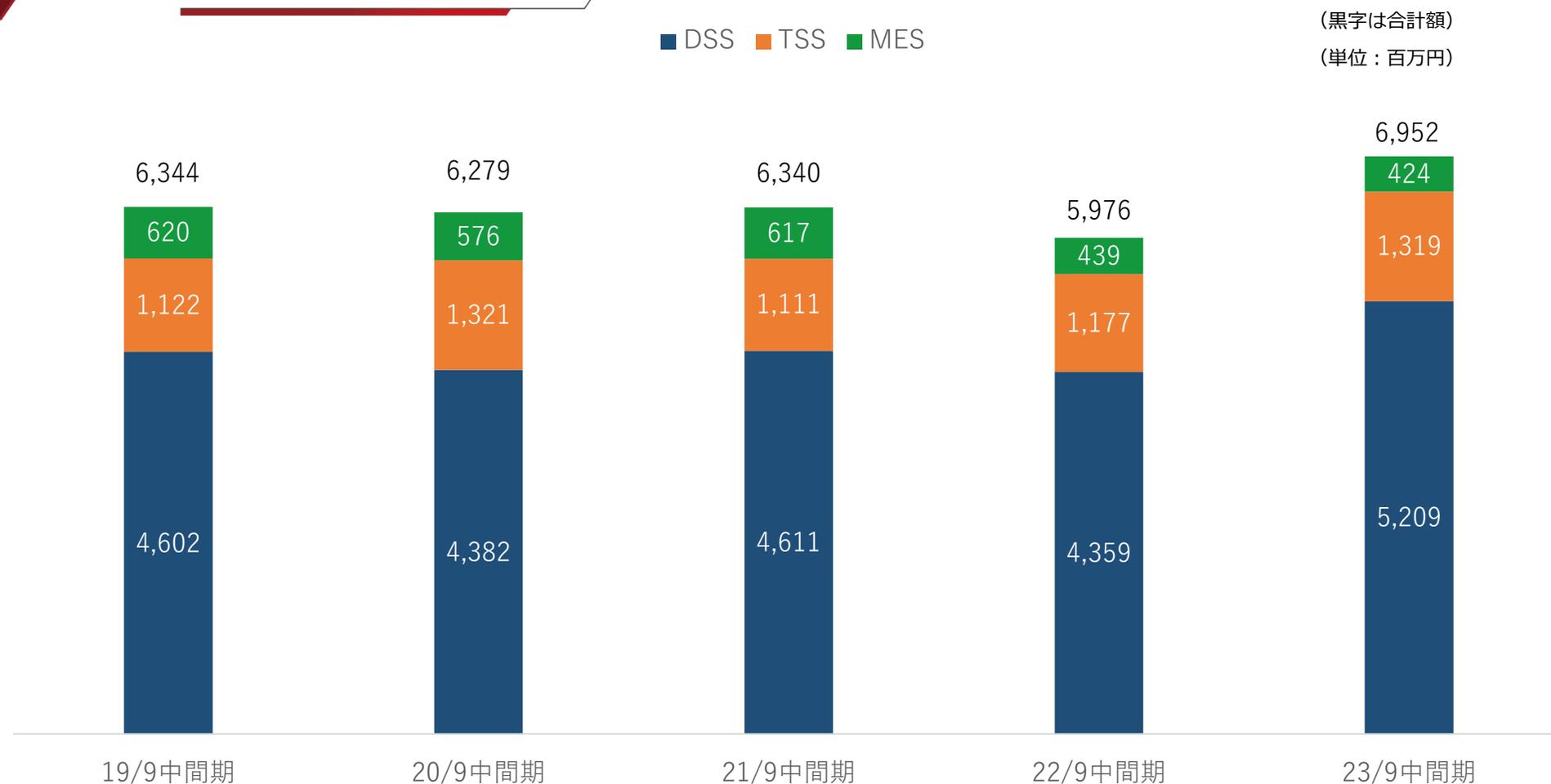
営業利益増減要因



(単位：百万円)

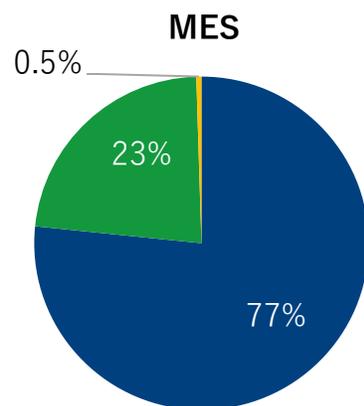
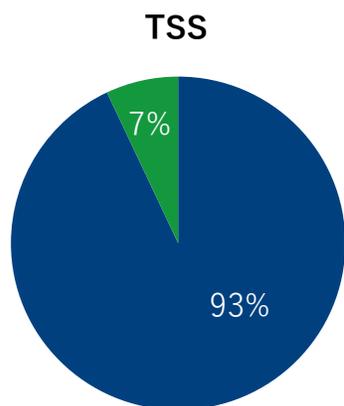
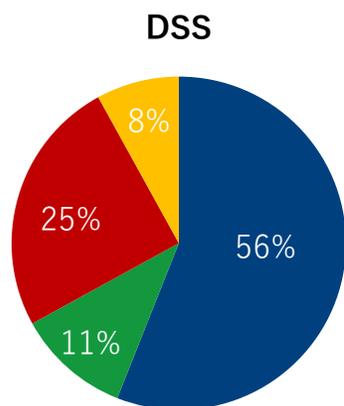
22/9中間期 営業利益	491
売上高変動による影響	325
売上原価率変動による影響	12
研究開発費変動による影響	108
その他の販管費変動による影響	△101
23/9中間期 営業利益	836

事業別 売上高推移

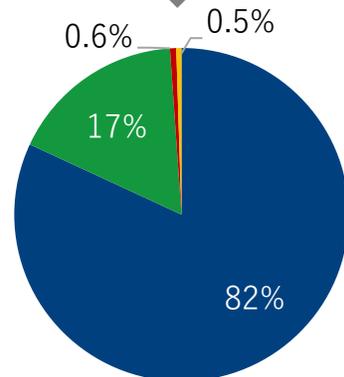
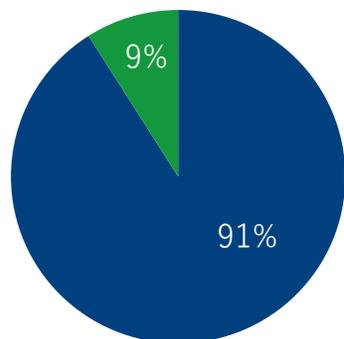
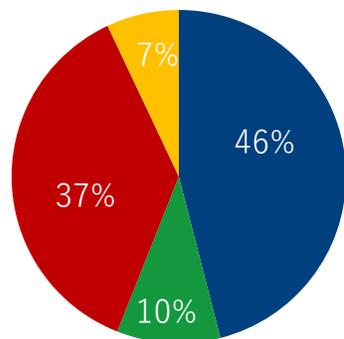


事業別 地域別 売上構成比・売上高

22/9
中間期



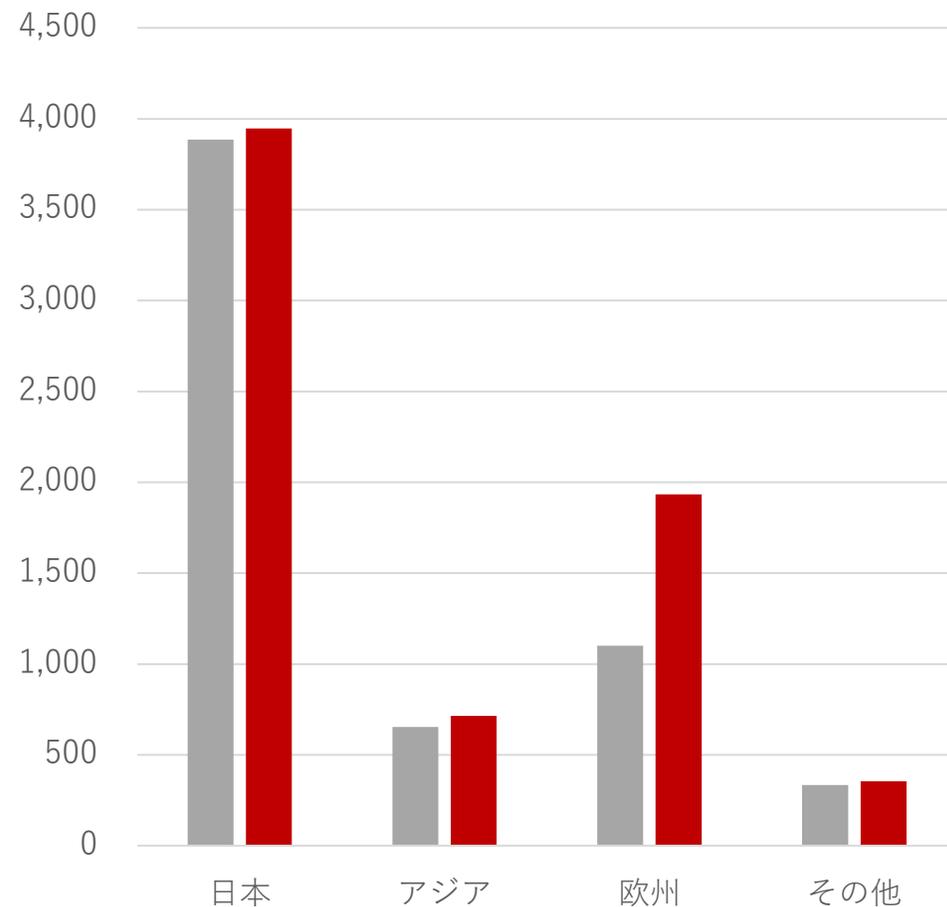
23/9
中間期



■ 日本 ■ アジア ■ 欧州 ■ その他

全社

(単位：百万円)



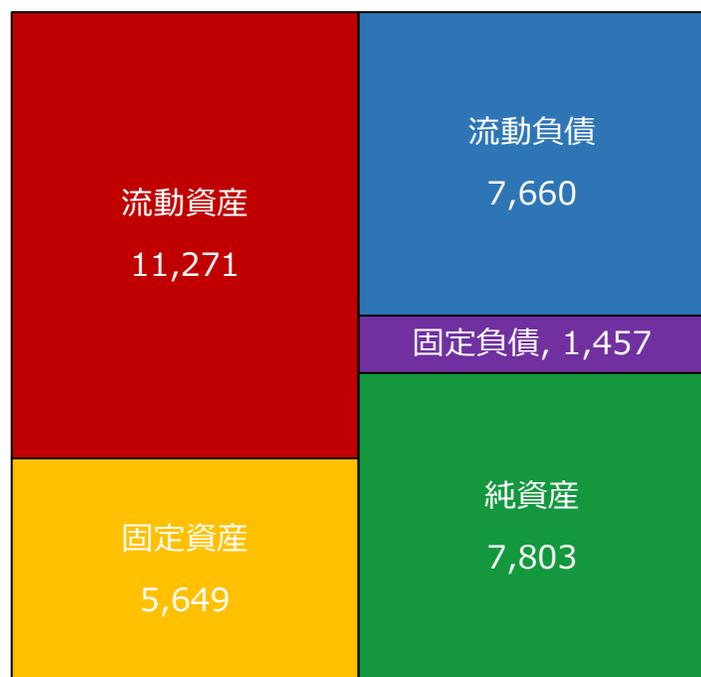
■ 22/9中間期 ■ 23/9中間期

資産の状況 ①

(単位：百万円)

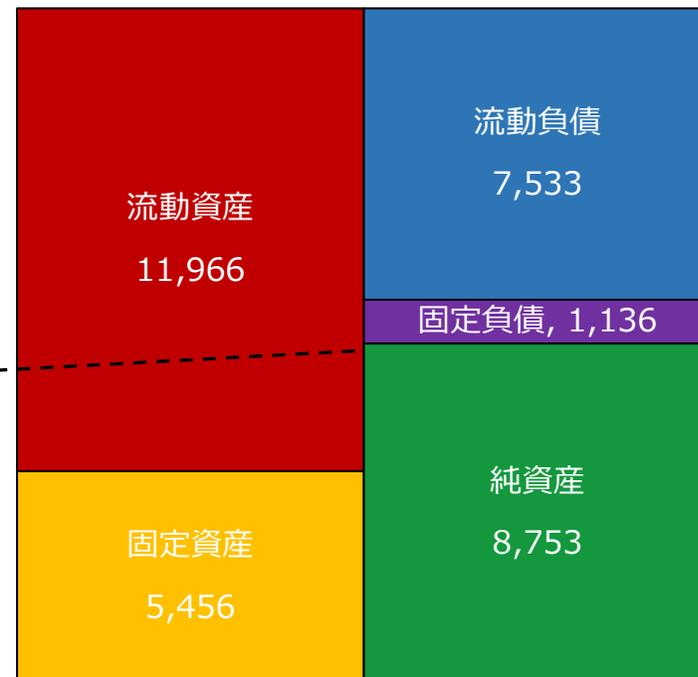
22/9中間期

23/9中間期



資産

負債・純資産



資産

負債・純資産

自己資本比率
22/9期 46.1%
23/9期 **50.2%**
(+4.1%)

資産の状況 ②

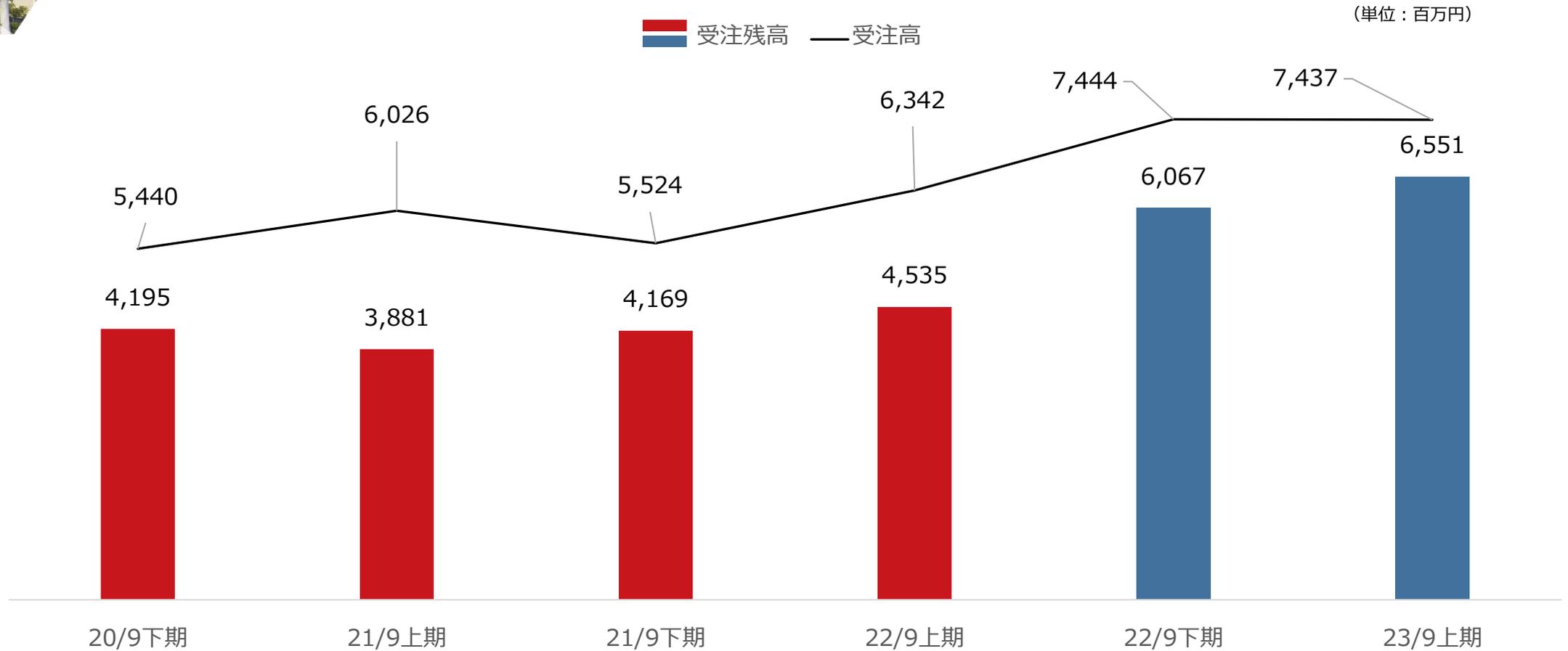
(単位：百万円)

	22/9 中間期	23/9 中間期	増減
当座資産	7,827	7,701	△126
その他の流動資産	3,444	4,264	+820
流動資産計	11,271	11,966	+694
有形固定資産	5,045	4,809	△235
無形固定資産	68	98	+29
投資その他の資産	535	549	+13
固定資産計	5,649	5,456	△192
資産合計	16,921	17,423	+501

	22/9 中間期	23/9 中間期	増減
流動負債	7,660	7,533	△127
固定負債	1,457	1,136	△320
負債計	9,117	8,670	△447
自己資本計	7,803	8,753	+949
非支配株主持分計	-	-	-
純資産合計	7,803	8,753	+949
負債純資産合計	16,921	17,423	+501

受注の状況

(単位：百万円)



業績の見通し（連結）

（単位：百万円）

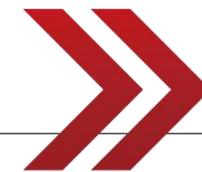
	22/9期実績	23/9期予想	前年度比	コメント
売上高	11,888	12,500	105.1%	<ul style="list-style-type: none"> ● 受注残高が増加していることから業績予想は当初予定通りで据え置き ● 電気料金高騰の影響や、為替差益等の営業外損益を想定しないことなどから経常利益は前期に比べ減少する見込（期初業績予想通り） ● 引き続き年度の業績予想達成に向けて取り組んでいく
営業利益	825	1,000	121.2%	
経常利益	1,237	1,000	80.8%	
当期純利益（親会社株主帰属）	1,065	690	64.8%	
売上高営業利益率	6.9%	8.0%	+1.1	
1株当たり当期純利益	65.4	42.3	64.6%	
1株当たり配当金（円）	10.0	10.0	-	
設備投資額	416	451	108.6%	
減価償却費	574	459	80.1%	
研究開発費	774	861	111.3%	

会社概要

Company Profile

商号	》	IMV株式会社 [英文社名] IMV CORPORATION
会社設立	》	1957年（昭和32年）4月17日
資本金	》	4億6481万円
従業員数	》	405名（2022年9月30日現在 連結）
年間売上高	》	118億8,800万円（2022年9月期 連結）
上場証券取引所	》	東京証券取引所スタンダード市場
証券コード	》	7760
決算期	》	9月30日

SECURE THE FUTURE



IMVが見守る未来

Future

安全を見つめて未来の社会に貢献します。

Integrity

誠実で開かれたパートナーシップを大切にします。

Reliability

製品とサービス、すべてに信頼を作り込みます。

Strength

振動技術の世界リーダーとして経営基盤を強化します。

Technology

顧客ニーズに俊敏に応える技術を開発します。



FIRST choice
for our Partners

【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来の業績に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。

実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解下さい。

そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。